



TITLE:

支部欄

AUTHOR(S):

CITATION:

支部欄. 天界 1935, 16(176): 67-74

ISSUE DATE:

1935-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167141>

RIGHT:

支 部 欄

大 阪 支 部 報 告 (10月)

◎東亞天文協會本年度總會準備委員會及大阪支部委員會開催さる

本部より大阪地方委員に發せられた案内狀により、去る10月23日19時より大阪 Y. M. C. A. で上記の委員會が開かれた。出席者は大阪支部長百濟教猷氏を始め12名。先づ來たる11月 9日(土)本會の本年度總會が大阪に開かれるに付き、その準備一切を本部より大阪地方委員に依頼したき本部高城氏の挨拶あり、よつて全國の會員全部に満足を與へるべき番組が審議され組立てられた。その番組の詳細は追つて本部より發表せられる事となる故、當日には遠近より賑々しく會員各位の來會せられるのをお待ち申す事とし、次いで大阪支部員の久々振りの會合でもあるので大いに當支部の強化の話が持ち上がり、今後の方針事業や當支部規約、當支部委員會の役員の決定も見られ、意氣潑刺たるものがあつた。本部より高城氏の出席もあつて、本部との意見の交換や亦天文座談會ともなり、此の上は共に本部も大阪地方委員も大阪支部員も當支部發展の爲に協力せられん事を希ひ、亦來たるべき總會にも當支部は舉げて萬障繰合せ御出席あらん事を望みつゝ、和氣藹々出席者の自己紹介と寄せ書を最後に拍手喝采裡に22時閉會解散す。(出席者順序不同。百濟、小尾、吉岡、津田、宮森、廣野、西森、山崎、大口、井伊、笹部、高城以上)

大 阪 支 部 報 告 (11月)

◎支部報第1號發行

11月9日本部の15周年記念日食講演映畫會並總會懇親晚餐會の案内を6日附支部報として發行、特に大阪支部の強化が總會に於いて發表せらるゝ事を強調し、全大阪支部員の出席を促した。亦7日附にて大阪府市立各中等學校、高等女學校、圖書館宛にも支部より日食講演映畫會の案内狀が發送せられた。

◎支部規約、假會員名簿

10月23日大阪支部委員會が開かれた時、起草された支部規約は印刷され、11月9日の總會に支部長より支部強化の經過と共に發表され、出席者全員の承認を得たので制定された。當日は他支部の人々にも配布されたので、大阪支

部規約は、各地の支部にも準用される事と思はれ、大阪支部の今後の動向活躍は、各地支部に影響する處甚大であらう。亦大阪支部員假住所名簿(11月現在)を作製、總會當日出席者に配布された。其を見ると支部員は90餘名となり、大阪に於ける有力な唯一の天文團體である事が知られる。支部委員も15名あり、大阪支部の事業は是等の人々によつて行はれる事は大いに期待され、着々と實績を擧げる日が近づいてゐる。住所名簿は本部にて調査中の會員要覽を参照し、完璧を期した上、次支部報に附録される。

◎支部の新事業 圖書部の設置、學校支部の増設

支部員中の有志者間にて、天文圖書の貸借をなして、共々に知識の向上を圖る事は有益であり、且親睦を深め、支部の主旨達成の一法として、圖書部の計畫となる。支部員所有の天文圖書目録を作製して、如何なる本が讀まれつゝあるかを調査するのが眼目で、貸借の意志は所有者の自由とし、借りたき人は所有者に貸出方を申込み、承諾あれば例會席上にて借受け、次回例會席上にて返却する事とす。次の支部報に此の調査票を同封いたします故、御記入の上必ず返送ありたし。

大阪支部は大阪市及近郊の本會員を總括する天文團體として事業を行ひ、特に支部員の密集した學校、クラブ等には其處を一つのグループとして、獨自の活躍を期待し、當支部と固く結合して、同じ傘下で事業をする事は共同の利益で、將來大阪支部は斯かるグループに積極的援助をなす。

◎例會の豫告

12月例會は別記の如く開催。他支部の人々も來阪の際には御出席を望む。來年度1月は新年祝賀茶話會とし、⁵日時、會場決定次第支部報にて發表。

大 阪 支 部 12 月 例 會

日時 12月14日(土)午後6時 場所 土佐堀 Y. M. C. A.
(市電土佐堀舟町下車 川沿西へ三丁)

講演 理學士 百濟支部長「來年中の天文現象について」

この外、山本會長の挨拶ある筈

全大阪支部員の來會を目標とす。友人お誘合せ來會されたし。

京都支部・京星會だより (十月)

長閑な時代祭の行列が繪巻物の様に都大路に繰広げられる。山國隊の笛と太鼓の行進曲は、紺碧に澄み渡つた大空に響き、古武士の鎧に麗かな陽光が燦々と降り注ぐ。碧瓏の十月・行樂シーズンを迎へた京の街は觀光客で賑はふ。二十二日夕方より全市に防空演習が行はれ、燈火管制のもとに全市暗黒。毎夜煌々晝を欺き一片の星影すら見せぬ京のメンストリート、四條や河原町も全部消燈、一點の燈火も見せず荒野大森林の内の如く、空には五等六等の微光星が輝き銀河はくつきりと白く浮び、この日都市の人々に星空の如何に美麗なるかを快よく示した。晴れた日の多い十月で會員諸氏の觀測はよく涉り、會として次の事業が行なはれた。

○觀望例會 土星天王星を覗く會として二十三日日没後、荒神橋上手鴨川原に於て觀望會が開かれた。一週間の快晴がようようくづれ掛けた夜で雲が多かつたが十名の參集者あり、十糧反射機にて可愛い綠色の天王星、次第に輪の薄くなる土星を覗き、星團二重星を巡り、變光星觀測の實地指導會として、星圖によりアルゴール其他の變光星及び比較星を示し、實地に就て比例法や光階法の説明がされ、翌日のアルゴール極小觀測の打合せがされた。

○變光星協同觀測 肉眼變光星の代表星アルゴールが二十六日(土)午後十一時に極小になる機會をつかまへ、會員の變光星への關心を昂め、變光星觀測に興味を覺へしめ、又協同觀測によつて極小を決定すべく、變光星課が中心になり協同觀測が計劃され、比較星及び光度曲線を入れた速報が發行されたが、不幸當日は曇天で何等得る處はなかつた。

○十月幹事會 創立 第壹年度を終へ、漸く基礎の固まつた京星會を更に堅實な地位に進め第二段の活動を初めるために二十七日(日)夜、田中氏宅に幹事會が開かれた。この幹事會は主宰者を持たず、總て合議制度による京星會の機關の一つであり、十名の幹事によつて組織され、會の方針決定機關として總會に次ぐ重要なものである。會員に對する新規事業、京都支部としての事業、對外的な天文科學知識の普及事業等に就て協議され、十一月十二月中の事業事務の打合せがなされ、今迄不定期に開かれてゐたこの幹事會を今後毎偶數

月下旬會誌出來上りと同時に定期的に開く事と決定された。

キヨウセイカラーグリーンフラグ

○京星色、^{グリーン}綠色旗 京星精神を表徴する色として、希望、勝利を意味し内にひそむ溢れる力を表はすといふ^{グリーンフラグ}緑の一角が選ばれ、京星會を表示するものとして新らしく大きい^{グリーンフラグ}緑の旗が作られた。合同ハイキングに觀望會に其他の諸會合に今後集會の目標となるものである。

○會誌「京星」第六號 編輯部で纏められた京星會創立壹週年記念誌「京星」第六號は十日印刷所へ原稿が渡され、二十二日迄に三回の校正を終り、下旬に出來上つた。京阪神合同ハイキング案内書は大阪に於て印刷され、天文研究會(大阪市)よりは會誌「ミルキイ・ウェイ」に添へ、京星會よりは會誌「京星」に添へ、東亞天文協會本部よりは希望者に郵便でそれぞれ發送せられた。

會員狀況 十月末現在京星會關係人員、顧問三氏、贊助員二氏、會員(京都市内居住)三十二名、贊同員(地方居住)八名、合計四十五名、京都市内居住の協會員(準會員)六十二名。

京阪神會員の合同ハイキング

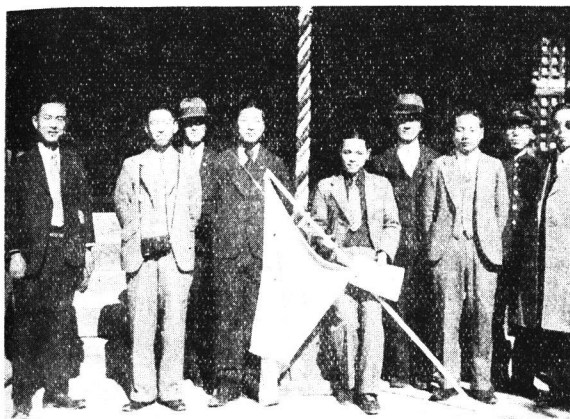
——山崎天王山一石清水八幡へ——

協會、京星會、天文研究會の秋季合同ハイキングは三會の會誌及び案内書により、豫告せられた通り、菊香る十一月三日(日)、みかど日和の名に背かない快晴に恵まれて、山城攝津の堺、山崎八幡の野に催された。

午前九時、京都側は新京阪電鐵京都驛に、大阪側は天六驛に集合、それぞれ連立つて出發、十時京阪の中點、大山崎驛に合流する。京星會の綠色旗と天文研究會の土星の圖の入つた旗を先頭に三々五々出發、驛前から妙喜庵を過ぎ、山に掛り、寶寺、十七士の墓に詣でる。社寺舊跡では、坂井運動部長の案内記による解説あり、山路を登りながら、觀測の話が出る。望遠鏡の話が出る。伊達、西森、吉澤氏の寫眞機のシャツタ1が隨所で切られる。道端の草木に就て、植物學に御造詣深い協會池田氏の叮嚀なる説明がある。可成の急坂乍ら、面白く苦しさを知らぬ間に、天王山頂上(270米)に到る。時に十一時三十分。山は南面、去年の颱風に無慘に荒されてゐる。黄金色の稻田と濃綠色の竹藪の交錯ある洛南の眺望に讚嘆の聲を擧げる。秀吉の旗を立てたと

云はれる松の端の茶店まで下り、眼下に桂、宇治、木津三川の合流點を臨み、

京阪神會員のハイキング



池田 伊達 田中 宇野 坂井 高井 徳永 吉澤 西森

對岸男山に相對し、
情趣豊かな展望を窓
にして晝食をとる。
晝食をとりながら、
天文年鑑や天界が取
出され、掩蔽の話か
ら時計の話、滿洲國
の標準時、天文用語
へ話は移る。一時出
發、更に山を下り、
山崎聖天の池の龜に
動物學を語り、山崎

町に入る。京都大阪の協會地方委員であり、京星會天文研究會の首腦部である高井、宇野、伊達、西森の諸氏の間に協會支部の事、九日の總會の事、兩會と協會との關係の事、會誌の編輯の事等話が交される。町を抜けて川へ出て、二重の渡し船で對岸橋本に渡る。八幡まで一停留所電車に乗るのも面倒と淀川堤防アスファルトの京阪國道を東に歩く。八幡驛からケ1ブルで頂上へ登り、修理中にて假本殿なる男山八幡宮に參拜し、歸路エヂソン碑に敬意を表する。この頃より空ようよう雲多く、低氣壓の襲來を告げる。ケ1ブルで山を下り、京阪電鐵八幡驛でコースを終り解散。名残りを惜みつゝ京阪東西に別れる。

初對面の諸氏も多い乍ら、同好者の氣安さから、直ぐ打とけ京阪混り合つて、天文談に花を咲かせ、幹事間では各會の協議打合せがされ、深み行く秋を探ね、大自然の内に一日を過し、愉快に有意義にこの催を閉じる事を得た。尙この合同ハイキングは、今春第一回が奈良奥山に催され、今回は第二回で、次回は來春大阪側が當番幹事となり、コース其他決定の上いづれ各會誌に豫告される故、京阪神同好者諸氏の參加を希望する。 (11. 3. 宇野生)

大阪 市岡中學校支部だより

前略、支部通信を纏めて申し上げます。

九月、此の月は文字通り雨に初まり雨に終り、大阪も陰鬱な氣分に閉されたが、その中でも時折我等市民の心を引きしめたものは、昨年九月には全大阪市民を恐愕せしめたあの「颱風」來るの報であつた。

七日 部員一同土星や月を觀測した後、最初の讀書會を試みて今後の方針、下級生の指導方針等を協議し、「天界」中の質問等も行つた。

十二日 月見の會を行つた。十九時頃まで曇つてゐた爲、出校者以外に少なく僅に五名であつた。月見だんごをほうばりながら、色々月について談じ合つた。

十月五日 夜間觀測を行つた。先生三名以下十五名出席、大變賑かであつた。同窓井澤君の星座についての神話の話などあり、少し一年生に指導を行ひ、愉快に秋の一夜を過した。その時『月斗牛の間を徘徊す』について斗は南斗なりや或ひは北斗なりやとの大論戰を展開し、竟には又の時に山本先生の御審判を待つ事として分れた。

十二日 防空演習の夜だ。全大阪一齊の燈火管制を屋上から俯瞰す、實に見事であつた。然し天空は雲や瓦斯の爲に、星の數は甚だ少く、觀測は期待に外れて残念であつた。

中旬、下旬は定期試験の爲格別の事もなし。

十一月一日 豐中、市岡、兩支部提携成る。曩に雲雀ヶ丘の伊達氏の好意に依り、笹部(豐中中學出身)井澤(市岡中學出身)の兩君が伊達氏宅で會合、提携の第一歩が進められたが、雜談の上遂に本日兩中學校天文部員計二十五名が美津農八階食堂に會同する事となり、夕刻五時相共に菓子喰ひ晚餐をとり、今後の提携方針などについて四時間餘も談じ合つた。其際井伊先生のスペクトルについての話など有益であつた。甚だ愉快なる和氣瀟々裡に本會を終り、最後に紀念寫眞をとつて解散した。

二日、三日、土曜及び明治節を迎えて、本校物理、化學、美術、天文の諸部合同の校内大展覽會が催はされ、當部も花山本部や笹部氏の援助を仰ぎ、その立派な業績に人目を惹いた。

(清田記)



南米支部だより

南米アリアンサにて

神 屋 信 一

高 城 武 夫 様

謹啓 その後御無沙汰致して居ります。山本先生外諸先生には御變り御座いませんか。當方一同無事勉強いたして居りますから御安心下さいませ。最近報告書等の整理が少しく遅れ勝ちになり申譯ありません。近日中にお送りいたします。實は前便で申し上げました様に大窪君が小學校の先生をやつて居りまして、ブラジル政府の日本語教師としての検定試験をうけなければ都合が悪いので少し勉強しましたので、観測だけしてゐますが、整理が遅れたわけであります。お蔭で検定試験は合格いたしました。最近日本語の方の校長がやめましたので、大窪君が校長といふわけで、生徒も百人あまりあるので、相當忙しいので弱つて居ります。ブラジル語の方はブラジル人の先生七人といふにぎやかさで、小學校といつても程度の低いこと驚くの外ありません。研究所の方もその後、追々と設置も出來さうになりました。今後専心に天文氣象等の仕事をいたしますため、農場を大整理いたし、十七町五段歩を賣却いたし、負債の整理をいたし、研究所の土地と天文臺の敷地とで七町五段歩にいたし、集約的に農業の方をいたし、自給自足がやつて行ける様に計劃いたしました。大面積ではどうしても粗放になり、過勞となりますので、先輩友人のおすゝめによつて、仕事を永續さす爲に、過度の勞働をさけることにいたしました。山本先生の御出下さいます迄には、少しは整理して居ると存じます。只今、研究所と協會との所有して居りますものは、土地の外に珈琲樹千五百株、馬一頭、豚三十頭、雞百五十餘羽、アヒル十羽、乳山羊五頭、猫三頭、犬三頭、観測所一棟、住宅一棟、三馬力半デイゼルエンジン一臺等が主なものであります。今月から會計の月報もお送りすることにして、會計主任に酒井喜重君（今までの當方扱ひの會費の整理が終了しましたら會員にしていたゞ

くことになつて居ります)をお願いいたしました。デイズルエンチンは川の水量が不足で、三馬力のダイナモをまわすことが出来ないので弱つてゐましたら、特志家の方が御寄贈下さつたわけで、据付けが出来ましたら、ダイナモは小型のものを購入することにしました。ラヂオは當地では非常に高價ですが、これもなんとかかなりさうであります。このエンヂンと平生先生のお持ち下さいました自記氣壓計等が最近に出来た財産であります。最近御來訪下さいました主な方は、市毛サンパウロ總領事、武田拓務省南米課長、南拓務屬、脇山歩兵大佐、黒石ブラジル時報社長でありました。(中略)

敷地内の珈琲はやつと十俵ありました。まだ賣りませんが、賣りましたら御送りします。百五十鈎位により賣れないとおもひます。日本金三十圓位になると存じます。これは甚だ延引ながら前便で申上げました様に本部への暴風のお見舞のつもりです。送金は當地からは仲々うまくまゐりませんので、接眼鏡等御願ひしました時の分も失敗でした。先は取りあへず近況御通知少々御願ひまで。匆々

謹 告

11月11日 一、富有柿 百五十個

會 員 香川縣觀音寺 森 安 千 秋 殿

今般協會本部へ上記の寄贈がありました。早速花山天文臺々員一同に分ちて賞味致しました。茲に改めて御好意を深謝致します。

昭和十年十一月

東 亞 天 文 協 會

た よ り

拜啓 只今天界十一月號入手致しました。ステキな改裝が先づ最初に喜ばして呉れました。

瀬戸 山 田 才 吉